

NEWSLETTER

教育GPプロジェクトニュースレター

Contents

- ・学部長挨拶 . . . 1
- ・「課題プロジェクト演習」について . . . 1
- ・「課題プロジェクト演習」担当教員
インタビュー . . . 2
- ・YNU 授業支援システムについて . . . 4
- ・欧州英語討論会 . . . 4
- ・教材（書籍・DVD）貸出のお知らせ
. . . 4

学部長挨拶

「問題解決能力」の自覚的育成を目指して



経済学部長
上川孝夫

国際都市横浜で実践性・国際性を掲げている横浜国立大学は、国際的な視野のもとで「問題解決能力」をもつ人材の育成を図ってきました。

経済学部では、講義とゼミナールからなる従来の学士課程教育の2・3年次に少人数教育による2単位の課題プロジェクト演習を導入し、国際的視野をもった「問題解決能力」の自覚的育成を目指しています。

履修生は課題プロジェクト演習を通じて、「テーマへの理解」、「資料・分析・整理」、「論理構成力」、「プレゼンテーション」、「ディスカッション」、「コミュニケーション」、「マネジメント」の7項目からなる「問題解決能力」の向上を図ることになります。

課題プロジェクト演習を積極的に活用することによって、学生諸君がさらに学習意欲を高め、今後の学習の発展・定着につなげていくことを望んでいます。

「課題プロジェクト演習」について

課題プロジェクト演習は、新たに2, 3年生を対象とした少人数教育として昨年後期から導入され、本年度は前期4科目、後期7科目の計11科目を開講しています。

課題プロジェクト演習では、実践性と国際的視野を持った問題解決能力の獲得をめざし、問題解決能力を発展させる方法のひとつとして、双方向型学習評価システムを採用しています。このシステムは、教員のみが評価を行うものではなく、教員と受講生の双方向で評価を行い、問題解決能力を向上させていく新しい試みです（P4「YNU 授業支援システムについて」参照）。

本ニュースレターでは、課題プロジェクト演習の様態を担当教員のインタビューや演習の途中経過など受講生の視点も交えながら、様々な角度から紹介していきます。

- 日本経済 -

Practice of Japanese Economy

担当：清水雅貴先生



Q. 先生のご専門は？

A. 大学院時代より環境経済学と地方財政学を専門としています。環境経済学では排出権取引、地方財政では環境税の研究を進めています。両研究とも、環境政策として実際に導入されている、もしくは導入されようとしている実例から、政策形成過程に注目して分析を行なっています。

Q. このテーマに関心をもったきっかけは？

A. 学部生の時に京都議定書で知られる国際会議があり、地球温暖化など今でいうところの「グローバル」な環境問題が非常にクローズアップされていました。また、大学時代、スキーなどもやっていたものですが、科学的な部分はわかりませんでした。暖冬など環境問題には関心をもっていました。

Q. 担当する授業はどんな内容ですか？

A. この授業では環境問題の解決と市民の役割といったテーマを取り上げます。具体的には、今日的な課題となって久しい環境問題を、日本を取り巻く身近な社会や経済など多面的な視角から分析し、論点や問題点を抽出するような授業体系を目指しています。

Q. 授業を進めていくうえで特に力を入れていることは？

A. 講義は最小限に留めて、参加者全員での討論を中心に進めていきます。さらに、毎回学生にパソコンを1台ずつ貸与して、

彼らが効果的なプレゼンテーションができるような環境を整えたいうえで、効率的な情報共有についてもあわせて実習していきます。

Q. 今年度の授業のなかでやってみたいことは？

A. 今年度の議論のテーマについては、基本的に学生が決めるので、それに合った特別講師を招聘したいと考えています。ただし、講師を呼んで話をしてもらうだけでは身につかないので、そうした形式はとらずに、学生が事前に学習や討論会を行ない、テーマに関する問題点・克服点を明確にしたうえで、講師に鋭い質問ができるような準備をさせるよう心がけています。今年度は地球温暖化問題がテーマですので、国際交渉など世界の第一線で活躍されている環境NGOの方をお招きして議論する予定です。

Q. 学生に向けて一言お願いします。

A. 議論をし足りなくなるほど準備をすることは並大抵の時間ではできません。そういった「仕込みの時間」は、議論の際に相手の意見を理解すると同時に、自分の意見を相手に理解してもらううえで欠かせません。その時に役に立つのがIT機器などの情報手段であり、それらをうまく活用することで、議論や学習のスキルも一層研ぎ澄まされると思います。この授業を足掛かりとして、学生を終えたときに実践的な問題解決能力をもった社会人になって欲しいですね。

- 計量経済分析 -

Practice of Economic Analysis

担当：松本章邦先生



Q. 先生のご専門は？

A. 労働経済学です。特に企業の投資としての雇用、人的資本論を専門としています。

Q. このテーマに関心をもったきっかけは？

A. 学部では化学を専攻して、ずっと実験ばかりやっていました。公務員試験で初めて経済学に触れて、これは面白いということで、経済学系の大学院に進学することになりました。

Q. 担当する授業はどんな内容ですか？

A. EViewsという統計解析ソフトを使うようになること、結果の解釈が正しくできるようになること、そして、用いる手法の理論部分に関して少しは理解を深めることです。授業目的の到達度を学生と教員双方から評価を行なうということですので、講義の内容としては手法の部分がメインになっていますが、学生にテーマを決めさせて考えてもらうといったプロジェクト演習全体の方針に沿ってやっていく予定です。

Q. 授業を進めていくうえで特に力を入れていることは？

A. 授業は卒論の練習という位置づけで考えています。卒論を書く時にこの授業で身につけた段取りを活かせることができればいいですね。

Q. 学生の反応はいかがですか？

A. 受講生は問題意識の高い学生が揃っているという感じです。教室では勉強の仕方

を教えますが、勉強するのは自分自身です。から学生本人の意欲が一番大事なことだと思います。

Q. 学生に向けて一言お願いします。

A. 今の時代はインターネットでデータを入手することが出来るので、様々な分析を自分一人でやっていけるようになって欲しいと思います。もちろん、経済学や計量経済学は便利なツールです。そうしたツールを使いこなす力を身につけて分析力を培っておけば、就職した後も困ることはないと思います。

- 都市と法 -

Practice of Law and Urban Society

担当：小川祐之先生



Q. 先生のご専門は？

A. 専門は法社会学です。法と社会の関係について研究する分野なのですが、私の場合、都市社会と法の関係性を研究テーマにしています。具体的には、これまでイギリスの都市法を中心に勉強してきました。それから、日本のまちづくり運動にも関心を持っています。

Q. このテーマに関心をもったきっかけは？

A. 学部3年次に土地問題に関する授業に出席したことがきっかけです。

Q. 担当する授業はどんな内容ですか？

A. 都市と法の関係について考えることが演習の内容になっています。学生の話聞いてみると、景観問題に関心があるということなので、授業の後半は景観に関わる法や社会の問題について考えていきたいと思っています。

Q. 授業を進めていくうえで特に力を入れていることは？

A. 双方向の授業ということなので学生の主体性をどう引き出すのかという点に力を入れています。こちらが一方向的に話すだけでなく、問題を理解するためには何が必要なのかを学生自身が考え、気付いてもらう。気付いた結果、こうすればいいのではないかと考えた考えが膨らむ。そういった手助けが出来ればこの授業の担当者としては成功ではないかと思っています。

Q. 今年度の授業のなかでやってみたいことは？

A. 景観の問題ですから実際に現場を見た方がいいと思います。ですから、適当な場所があれば学生と一緒に出掛けたいと考えています。また、実際に行政の現場で都市計画を担当している方などに話を聞く機会が持てればいいですね。

Q. 学生の反応はいかがですか？

A. 正直とまどっているところがあると思います。いつもの授業と違うぞと。何か突然話をふられて考えなくてはならなくなり、とまどいのある人、またはそれを面白がってくれる人、様々な反応があります。もちろん、とまどっている学生も何となく面白がっている面もあるようですので、その点については良かったと感じています。

Q. 学生に向けて一言お願いします。

A. 一番期待することは、とにかくついてきて欲しいです。自分で本を読んだり、調べることも沢山ありますが、頑張ってきて欲しいですね。課題を理解し、必要事項を調べてしっかりまとめる、こういった一連の作業をここで経験しておくこと今後の大学生活はもちろん、社会人になっても必ず役に立つはずです。

- 英語による経済学 -

Economics in English

担当：SAVTCHENKO LIUDMILA 先生



Q. 先生のご専門は？

A. 一言でいうと国際金融です。具体的には、銀行の取り付け騒ぎや、バブルの崩壊といった金融危機といわれる現象について研究しています。

Q. このテーマに関心をもったきっかけは？

A. 1997年に起こったアジア通貨危機が一つのきっかけです。アジア通貨危機は、一見関連性のないようなブラジルなどの国々にも影響を与えており、不思議に思いました。どうしてこういったことが起こるのか、これはチャレンジする価値のあるテーマだと思いました。

Q. 担当する授業はどんな内容ですか？

A. 英語を用いてミクロ・マクロなど経済学の基礎理論を学習します。毎週取り上げるトピックに関する英語の記事を私が選んで、前もって学生に読んできてもらいます。授業はこの記事をもとに理論を説明し、議論を行ないます。その目的は、いま起こっている経済現象を学生に知ってもらうだけでなく、ディスカッションをするうえで共通の話題を提供することです。何か共通の話題があると、ディスカッションが行ないやすいといった利点があります。

お知らせ

◇本取り組みが取材されました！

昨年度の課題プロジェクト演習の様子など、『IKUEI NEWS』第50号(2010年4月)にて紹介されています。是非ご参照下さい(<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/news/>)。

◇ニュースレター第2号の予定(7月発行予定)

次号では、本年度課題プロジェクト演習の受講者へのインタビューを掲載する予定です。



(英語による経済学 LIUDMILA 先生)

Q. 授業を進めていくうえで特に力を入れていることは？

A. 二つあります。一つは、実際に起こっている事象を必ず取り上げることです。アップルやグーグル、ソニーなど国際企業の動向から、消費者の嗜好に至るまで様々です。例えば、「お昼に何を食べるのか」といった私たちの日常生活に関わる身近な事例がテーマになります。もう一つは、学生に自分の意見を述べる時間を与えることです。

Q. 今年度の授業のなかでやってみたいことは？

A. これまでは私がテーマを選んで議論を進めてきましたが、今度は逆に、学生自身が自分の置かれている環境のなかから何かしら問題を見つけて、それをテーマに経済学の視点から議論をしてもらおうと考えています。

Q. 学生の反応はいかがですか？

A. とても真面目で一冊懸命読んできています。ですが、まだきちんとした議論までには至っていません。準備はしてきているのですが、話す段になると遠慮してしまいますね。もったいないな、と思います。

Q. 学生に向けて一言お願いします。

A. どんなことでもいいので自分の意見を積極的に話して欲しいですね。わからないでもいいし、この記事には賛成できないということでもいいのです。経済学では何か一つの答えを出すわけではありませんから。間違ってもいいのです。折角準備をしてきているのですから、自分からどんどん話さないと、英語に限らず外国語はうまくなりません。積極的に話すことが一番大事な点だと思います。

YNU授業支援システムについて

YNU授業支援システムが新システムに切り替わりました。課題プロジェクト演習科目では、双方向型学習評価システムとして「学習成果管理」のメニューが追加されています。このメニューは課題プロジェクト演習の科目以外では使用できません。

1. 授業支援システム URL

<https://lms.ynu.ac.jp/lms/login/>

横浜国立大学の HP から授業支援システムのサイトにログインできます。

① YNUのトップページから授業支援システムへログイン

YNU → 図書館・センター・附属学校 → センター (全学教育研究施設) → 情報基盤センター → 授業支援システム

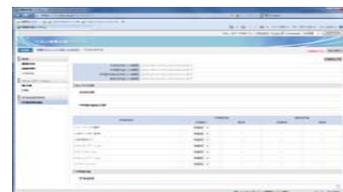
② 経済学部 (<http://www.econ.ynu.ac.jp/>) の HP からログイン

横浜国立大学 経済学部 → コンピュータープラザ → 授業支援システム

③ 教育GPプロジェクト専用HP (<http://www.econgp.ynu.ac.jp/>) のトップページにバナーがあります (横浜国立大学経済学部 → カリキュラム → 横浜国立大学経済学部大学教育推進プログラムからアクセスできます)。

2. 学習成果管理について

学習成果評価では、自己目標や自己評価を設定したり、教員からの評価やアドバイスを確認することができます。課題プロジェクト演習を履修されている方は、授業支援システムのサイトに「ログイン」し、「講義 HOME」のメニューから【学習成果評価】を選択して下さい。詳細は、各担当教員の指示に従って下さい。



<授業支援システムイメージ>

欧州英語討論会

本年度はパリ大学東クリティク校(フランス)・ボーンマス大学(イギリス)にて行ないます。厳正な審査の結果、10名のメンバーが決定しました。詳細は次号で紹介します。

教材(図書・DVD) 貸出のお知らせ

当プロジェクトで使用する参考図書、DVD教材を広く活用してもらうために貸出を行っています。

利用方法、図書・DVDのリストはHPに掲載しています。



教育GPプロジェクト専用HP (<http://www.econgp.ynu.ac.jp/>) トップページのバナーをクリック

編集後記

ニューズレター創刊号をお届けします。いよいよ課題プロジェクト演習が本格始動しました。今回、担当教員の方に取材をして強く感じたことは、やはり教育の基本は「人」にあるということです。それは地球創世以来、決して変わることのない原理なのかもしれません。今後も教育における「人」と「人」との関わりを意識しながら、授業に熱心に取り組む教員や学生の声を伝えることができると考えています。ご期待下さい!

(教育GPプロジェクト室マネージャー)

<http://www.econgp.ynu.ac.jp>

発行：2010.6.18

横浜国立大学経済学部 大学教育推進プログラム 教育 GP プロジェクト

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-3 TEL&FAX：045-339-3558

E-Mail：econ.edugp@ynu.ac.jp